

令和3年度マリンサイエンスギャラリー

千葉県エビ・カニ大集合!

令和4年2月26日(土)～5月8日(日)



千葉県立中央博物館 分館 海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾 123
TEL 0470-76-1133 FAX 0470-76-1821
URL <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/>
Twitter @umihaku



■ご利用案内

開館時間 午前9時～午後4時30分(入館は4時まで)
休館日 月曜日(祝日の場合はその翌日)
入場料 一般200円、高校・大学生100円
中学生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方及びその
介護者1名 無料
その他団体割引等の制度があります(お問い合わせください)
駐車場 午前8時30分～午後5時15分(入庫は4時15分まで)
普通車2時間まで200円
障害者手帳をお持ちの方及びその介護者は無料

■交通

JR外房線 鶴原駅から徒歩約15分
勝浦駅からタクシーで約10分
勝浦駅から小湊鉄道バス「勝浦市役所～勝浦駅～ミレー
ニア勝浦線」で「海中公園・海の博物館」下車徒歩1分
自動車 圏央道・市原鶴舞ICから約1時間



海の博物館
ホームページ

科研費
KAKENHI

*新型コロナウイルスの感染状況によっては、中止または会期等が変更になる場合がございます。

エビやカニなどの十脚甲殻類は、岩礁や砂浜、干潟など、海岸の地形に応じて生息する種類に違いがみられます。また、浅海域と深海域、暖流系と寒流系を比較しても、それぞれで種類が異なります。さらに、エビやカニは海ばかりでなく、河川などの淡水域にもくらしています。千葉県を構成する房総半島は、首都圏にありながら多様な自然環境が残っているため、エビやカニの顔ぶれがとても豊かです。今回のマリンサイエンスギャラリーでは、海の博物館で収集した資料を中心に、房総半島でみられるさまざまなエビやカニを紹介します。

◆海の博物館のまわりだけでも多彩なエビ・カニ◆

当館常設展示室の「博物館をとりまく自然」コーナーでは、当館周辺のタイドプールや潮下帯、アマモ場でみられるエビやカニの代表として40種を紹介しています。当館の20年以上に渡る調査研究活動の結果、2021年3月までに博物館周辺の潮間帯だけで実に90種を超えるエビやカニ、ヤドカリを記録しました。また、当館近くの風光明媚な「鵜原理想郷」には、千葉県では絶滅が危惧されているアカテガニやベンケイガニが多数生息します。夏の満月と新月の夜にこれらのカニは林から海辺へ降りて、メスが腹部に抱えた卵から幼生を放出します。

◆深海の大型甲殻類たち◆

房総半島をとり囲む海は、深海生物にも恵まれています。南房総の東京湾海底谷や外房の鴨川海底谷には、脚を広げた幅が世界最大の節足動物であるタカアシガニが生息しています。勝浦沖にはキンメダイ漁の漁場があり、その釣り針にオオホモラなどのカニ類がかかります。ボタンエビやアカザエビなどのエビ類は、本州から九州にいたる太平洋岸の深海域に限って分布しており、千葉県は、これらのエビを生で味わうことのできる、数少ない地域のひとつです。

◆他の生きものと一緒にくらすエビ◆

南房総沿岸は南から北上する暖流である黒潮の影響下にあり、主に熱帯域に生息する共生性エビ類の分布の北限にあたります。これらのエビはイソギンチャクやサンゴ、ヒトデなどと共にくらし、ガラス細工のように透明で見つけにくい種類や、共生相手に色も形もそっくりな種類がいます。海の博物館では南房総でこれらのエビ類の調査を行い、分類や系統に関する新知見を得てきました。

関連講座「勝浦の甲殻類」

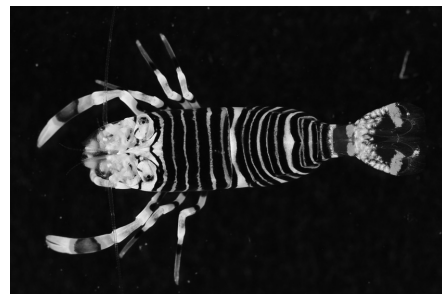
内容：河川から深海まで、勝浦の甲殻類を紹介します。

日時：令和4年3月12日(土) 13:30~14:30

対象：中学生以上 **定員：**8名

講師：奥野淳兒（千葉県立中央博物館分館海の博物館 主任上席研究員）

申込方法：参加希望者全員の住所、氏名、年齢を明記の上、ハガキ、ファックス、電子メールで令和4年2月26日(土)までにお申し込みください。なお、お申し込み多数の場合は抽選とさせていただきます。



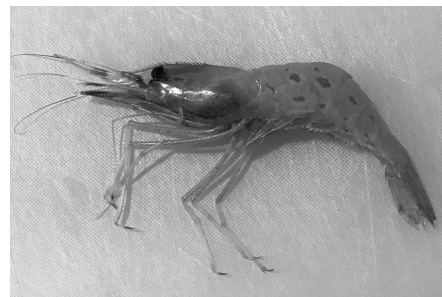
ヨコシマエビ (テナガエビ科)



ベンケイガニ (ベンケイガニ科)



オオホモラ (ホモラ科)



ボタンエビ (タラバエビ科)



イソギンチャクエビ (テナガエビ科)